

シラホシゾウ類の移動を遮断する試み (I)

林試九州支場 森 木 桂
岩 崎 厚

シラホシゾウ類の移動が、餌木で遮断できるかどうかを知る目的で、つぎの実験を行なった。

1. 調査方法

植木試験地(熊本営林署打越園有林52林班)内に毒餌木A、これから約200m離れた点にコントロールの毒餌木Cをおいた。餌木は、アカマツ直径約10cm、長さ30cm、5本を木箱に並べ、0.5%BHC液を十分に散布し、上を黒のダイオネットでおおった。

1970年5月16日にAとCを設置、翌日から表1の通

り採集した。25日にAの周囲に同様の毒餌木を、半径30mの円周上に等間隔で10個設置、これは6月6日に取除いた。

もし、毒餌木Aに集まる虫が、周囲に設置した餌木で多少とも遮断されるなら、A/C比に影響がでるはずである。

2. 結果と考察

結果は、表1~2と図1に示す。

図1から明らかなように、周囲に毒餌木を置いて

表 1. 毒餌木A・Cに集まったシラホシゾウ属3種

	ニ セ			マ ツ			コ マ ツ			降水量 (mm)
	A	C	A/C	A	C	A/C	A	C	A/C	
5月 17	32	48	0.67	1	30	0.03	2	8	0.25	—*
19	67	60	1.12	2	36	0.06	3	15	0.20	—
21	19	5	3.80	5	11	0.45	4	7	0.57	11
23	25	31	0.81	17	50	0.34	9	43	0.21	5
25	20	23	0.87	44	87	0.51	43	49	0.88	1
27	88	28	3.14	34	85	0.40	45	60	0.75	20
29	81	28	2.89	37	106	0.35	68	72	0.94	2
31	23	38	0.61	25	57	0.44	34	60	0.57	18
6月 2	8	7	1.14	3	26	0.12	23	32	0.72	—
4	8	17	0.47	12	33	0.36	15	44	0.34	—
6	8	3	2.67	26	33	0.79	26	36	0.72	17
8	29	11	2.64	27	50	0.54	21	52	0.40	24
10	38	31	1.23	63	87	0.72	24	90	0.27	—
										6

* 5月16日.

表 2. 毒餌木Aの周囲に設置した毒餌木10個に集まったシラホソウ属3種

	ニセ	マツ	コマツ	計
5月 27	442	440	496	1378
29	644	968	629	2241
31	186	398	342	926
6月 2	27	130	185	342
4	35	129	184	348
6	24	202	226	452

も、マツノシラホソウとコマツノシラホソウのA/Cの比に殆ど変化がなく、中央の毒餌木Aへの移入を遮断できなかつた。

ニセマツノシラホソウのA/C比には、3つの山があるが、これはいずれも降雨後に起っている。実数で検討すると(例えば、表1, 5月25日と27日), Cより

Aにとれる虫がここで大きく増えている。これは、Aを設置した林が広く下刈をしてあるのに対し、Cの周辺は高さ2mほどのスダケが密生しているがためにニセマツノシラホソウの移入はCよりAに容易であったためと思われる。

雨と林況の影響は、種類ごとに異なるようである。

中央の毒餌木Aと、その周囲の毒餌木でとれたシラホソウ属3種の割合を比べると、ニセマツノシラホソウは中央でやや割合が高く、マツノシラホソウは周囲でやや高くなっている。コマツノシラホソウは殆ど差がない。これは、餌木への接近方法の違いによるものと思われる。

3. 結 論

半径30m円周上に10個設置した毒餌木では、中央餌木への移入を遮断できなかつた。

図 1. 3種のA/C比と降水量

